

2018年6月7日 尾形記念木曜コンサート

♪美人トリオが奏でる初夏のメロディー

～ご挨拶～

いよいよ6月、梅雨入りも間近となっておりますが、いかがお過ごしでしょうか。本日は貴重なお時間を割いてチェレステ・スタジオ松濤に足を運んでくださり、心より感謝申し上げます。本日は、第2部に「オペラ座の怪人」の名曲をご用意しております。管楽器とピアノのトリオ演奏を、どうぞご堪能下さい。

～PROGRAM～

《第1部》

N.H. ブラウン 作曲 「雨に
唄えば」より 雨に唄えば (Fl.Ob.Pf.)

H.アーレン 作曲
「オズの魔法使い」より 虹の彼方に
(Fl.Ob.Pf.)

R.ロジャース 作曲

E.モリコーネ 作曲

桑田佳祐 作曲

加藤登紀子 作曲

F.ロウ 作曲

「サウンド・オブ・ミュージック」より
私のお気に入り (Fl.Pf.)

「ミッション」より ガブリエルのオーボエ (Ob.Pf)

「永遠の0」より 蛍 (Fl.Ob.Pf.)

「紅の豚」より 時には昔の話を (Fl.Ob.Pf.)

「マイ・フェア・レディ」より

序曲～君住む街で～踊り明かそう (Fl.Ob.Sop.Pf.)



～休憩～

《第2部》

A.R.ウェーバー 作曲 ミュージカル「オペラ座の怪人」

1. Overture オーヴァーチュア

1905年、オークション会場。舞台小道具がオークションにかけられる中、老人（ラウル・シャニユイ子爵）が猿のオルゴールを競り落とします。やがて競売人は「オペラ座の怪人の不思議な出来事」を語りだします。すると舞台は1881年のパリ・オペラ座へとタイムスリップします。

2. Think of Me スィング・オブ・ミー

1881年のパリ・オペラ座オペラ座のスター歌手カルロッタがリハーサルをしています。すると舞台が突然壊れます。皆は「オペラ座の怪人がやった」と騒ぎ、カルロッタは舞台を降ります。そこで代わりに推薦されたのが、クリスティーヌ・ダーエでした。クリスティーヌは皆の前で見事に「Think of Me」を歌い上げ、そのまま主演デビューを果たします。

3. Angel of Music エンジェル・オブ・ミュージック

主演デビューをしたクリスティーヌは、「私は「音楽の天使（オペラ座の怪人）」に音楽を習っているけれども、まだその彼を見たことがない」ことを親友メグに話します。続いてクリスティーヌのもとを幼馴染のラウルが訪れます。ラウルはオペラ座のパトロンとして観劇しており、幼馴染が主役を歌っていることに気づいたのでした。クリスティーヌはラウルにも「音楽の天使」の話をしませんが、彼はそれを信じません。彼らが再会を喜んだ後、ラウルは彼女をディナーに誘い

ます。しかし、クリスティーヌはディナーにはいかず、「音楽の天使（オペラ座の怪人）」との練習を選びます。ラウルはそれに嫉妬します。

4. *The Phantom of the Opera* オペラ座の怪人

クリスティーヌが音楽の天使に”姿を見せてくれるよう”頼みます。すると音楽の天使は、クリスティーヌをオペラ座の地下にある隠れ家に連れていきます。

5. *The Music of the Night* ザ・ミュージック・オブ・ザ・ナイト

オペラ座の地下にある隠れ家。仮面をつけたオペラ座の怪人が、クリスティーヌへ向けて歌を歌います。怪人がオルガンを弾く中、一度気を失ったクリスティーヌが猿のオルゴールの音で目を覚まします。クリスティーヌはそっと怪人に近づき、彼の仮面を外します。すると醜い火傷のような跡をもつ怪人の顔が現れます。仮面を外された怪人は、ひどく怒ります。それと同時にクリスティーヌへの恋心も口にします。

舞台は再びオペラ座。クリスティーヌが行方不明になり、皆が騒いでいます。そこにオペラ座に「カルロッタはもうだめだ。クリスティーヌを主演にしろ。この指示には逆らうと、災いが起きる。」と怪人から手紙が届きます。皆はこの横暴な手紙に怒ります。そして指示には従わず、カルロッタを主演のままにします。オペラが始まり、カルロッタが主役を歌っていると、怪人により彼女の声が”カエルの声”に変えられます。そして次第にオペラ座が怪しい雰囲気にもまれると、天井から死体が縄に吊られて落ちてきて、オペラ座は混乱に包まれます。混乱の中、クリスティーヌはラウルを連れて逃げます。クリスティーヌは自分も殺されるのではと感じ、「オペラ座の怪人」のことをラウルに告げます。

6. *All I Ask of You* オール・アイ・アスク・オヴ・ユー

ラウルはクリスティーヌを守ることを誓います。そして二人は婚約します。二人の様子をみていた怪人は絶望します。怪人は復讐を誓い、オペラ座の巨大なシャンデリアを落下させます。

7. *Masquerade* マスカレード

6か月後のオペラ座。仮面舞踏会が開かれています。そこにシャンデリア落下事件以来、半年ぶりに怪人が姿を現します。怪人は”自らが作曲したオペラ『ドンファン』の勝利”でクリスティーヌを主演にしよう要求します。そして”従わないと災難が起きる”と再び忠告します。怪人はクリスティーヌの婚約指輪を奪い、消えていきます。ここで怪人の素性が明らかになります。怪人は、生まれつきの醜い顔が原因で見世物小屋で人目にさらされていました。彼はそこから逃げるために、オペラ座の地下に潜りこんだのでした。

8. *Wishing You Were Somehow Here Again* 墓場にて

クリスティーヌは”怪人への感謝”と”ラウルへの愛”に複雑な感情を抱き、父の墓を訪れます。するとそこに怪人が現れ、クリスティーヌを歌で魅了します。クリスティーヌが怪人の虜になりかけた瞬間、ラウルが現れます。ラウルとクリスティーヌは、怪人のもとから逃げ去ります。ラウルはクリスティーヌが歌えばオペラ座に怪人が現れることを利用し、”開演中に怪人を捕まえる”ことを計画します。

9. *The Point of No Return* ザ・ポイント・オブ・ノー・リターン

オペラ『ドンファン』が開演します。主役のクリスティーヌが二重唱を歌っています。しかし、その相手が怪人にすり替わっていることに気づきます。クリスティーヌが仮面を剥がすと醜い顔が現れ、オペラ座は混乱に包まれます。本当の相手役のパianジは、怪人により舞台裏で殺されていたのです。そしてパianジの死体が発見されると、怪人はクリスティーヌを連れて舞台から逃げだします。

しばらくし怪人の地下の隠れ家が明らかになると、皆は隠れ家へ追いかけてきます。怪人はクリスティーヌを隠れ家に連れてくると、彼女にウエディングドレスを着るよう命令します。そこにラウルが追ってきますが、ラウルは縄で捕らえられます。怪人は「ラウルを助けてほしいなら、自分と一生ここにいろ。逆らえばラウルを殺す。」とクリスティーヌを脅します。クリスティーヌは「あなたが醜いのは顔ではなく心です。」と語ります。そして怪人に憐みのキスをします。人間の優しさを初めて感じた怪人は、クリスティーヌとラウルを解放します。クリスティーヌは泣きながらラウルと立ち去り、怪人も涙します。

怪人は行方をくらまし、最後に猿のオルゴールが虚しく鳴り響きます。

《出演者プロフィール》

内藤 日奈（フルート）

高知県立高知丸の内高等学校音楽科、昭和音楽大学器楽学科、同大学研究科卒業。これまでにフルートを甲藤卓雄、甲藤さちの各氏に、室内楽を太田茂、増村修次の各氏に師事。在学中、大学の推薦によりJ.C.ジェラルド氏のマスタークラスを受講。第36回高知県新人演奏会に出演。第40回下八川圭祐記念高知音楽コンクール第3位（1位なし）。現在、財団法人

ヤマハ音楽振興会PMSフルート・オカリナ科認定講師としてレッスンしながら、アンサンブルで演奏活動をしている。

藤田 有理亜 (オーボエ)

12歳よりオーボエを始める。2018年東京音楽大学を卒業。現在、同大学大学院音楽研究科 科目等履修生在籍中。第二回全日本高等学校管打楽器ソロコンクール 最優秀賞受賞。2016年『学内 新入生歓迎演奏会』に出演。2017年『学内オーディション合格者による ソロ・室内楽定期演奏会』に木管六重奏で出演。これまでにオーボエを宮本文昭、最上峰行、南方総子、荒絵理子各氏に師事。声楽を小林彰英氏に師事。音楽団体『Japan Popular Classics Orchestra (通称JPCO)』メンバー。

富永 有里乃 (ピアノ)

国立音楽大学音楽教育学科卒業。コレペティートルコース、ピアノ指導者コースを修了。様々な学内演奏会や読売新人演奏会等に伴奏で出演。日本大学大学院芸術学研究科博士前期過程ピアノ専攻修了。修了演奏会出演。在学時より、声楽・器楽伴奏を中心に、ピアノ・合唱指導、音楽療法・リトミック助手、編曲等にて活動。BGMやイベント演奏を多数努め、幼児教育や様々な音楽イベントの企画にも携わっている。Cafetalk音楽講師。

佐藤 智恵 (ソプラノ)

株式会社ムジカ・チェレステ代表取締役。チェレステ・スタジオ松濤オーナー。岡山県倉敷市出身。東京音楽大学卒業、同大学院科目等履修生(声楽)修了。オペラ、オペレッタ、各国の歌曲を中心に、ミュージカルや映画音楽などのジャンルも幅広くレパートリーにもつ。これまでに「フィガロの結婚」スザンナ、「コジファントゥッテ」デスピーナ、「愛の妙薬」アディーナ、「ルクセンブルク伯爵」ジュリエッタ「チャールダーシュの女王」シルヴァ役等を演じる。2015年4月6日カーネギーホール ロナルド・オー・ペレルマン・ステージにデビュー。エンターテインメント・クラシック®の常設劇場設立を目指し、歌って踊って演技ができ企画・プロデュースもできる稀有な存在。愛らしい舞台姿と透明感のある歌声、心に響く歌唱は、多くの観客を魅了している。HP: <http://sato-chie.com/>

本日はご来場誠にありがとうございました。

ムジカ・チェレステは皆様にエンターテインメント・クラシック®をご提供して参ります。

主催 Musica Celeste (ムジカ・チェレステ)

